

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者各位

横浜市栄区の医院に3月20日に来院した小児で、薬の服用がない14歳のインフルエンザ患者が、2階から飛び降りた事例を報告します。

症例：14歳男児（インフルエンザワクチン未接種）

3.20（火）午前に初診。

3.19（月）に発熱（38度前後）し、持続するために来院。少し倦怠感はあるが、他に症状なし。咽頭軽度発赤以外所見なく、全身状態も良好。インフルエンザ迅速試験：インフルエンザB型陽性。症状が軽いため、タミフル等の抗インフルエンザ薬は処方せず、解熱剤（アセトアミノフェン）のみ処方し、十分患児を観察するように話をして帰宅。

3・21（水）朝6時頃父親が、2階の別室で寝ている患児がいない事に気づき、庭に出てみると患児が芝生の上を裸足でうろろと歩いているのを発見した。会話は可能だが、ぼーっとしていた。患児は、2階窓から瓦屋根に出たらしく、飛び降りる瞬間意識が戻り、ベランダのパイプに手をかけたことは覚えているが、どのように落ちたかは記憶にない。また、部屋で壁に頭をがんがんぶつけたことは記憶している。尿失禁があったが、けがは全くなし。その時、熱は測っていないが、38度くらいはあった。その後眠り、昼には意識清明になった。この間、薬は解熱剤も含め一切服用していない。

3.23（金）再診。38度前後が持続し、咳が出てきた。咳の薬を処方し、まだ熱があるので同じ部屋で寝るように指示し帰宅。

3.24（土）には解熱して、以後特に問題なし。

今回の事例は、タミフルの服用がないインフルエンザ患児でも、飛び降りと言う異常行動をきたすことがあるという貴重な症例と考え、報告することにしました。また、3・17に同様なケースが川崎医大で報告されています（読売新聞）。これは、同じく14歳の男児で、2階から飛び降り、骨折をして川崎医大に入院後にインフルエンザBと診断されたが、タミフルは飲んでいなかったという症例です。

この2件の症例より横浜市小児科医会では、インフルエンザではタミフル服用の有無に関わらず、飛び降りという異常行動が起こりうることを認識し、インフルエンザの小児患者の親はタミフルの服用の有無に関わらず、患児と同じ部屋で寝る等、目を離さないこと、異常行動があった場合は至急かかりつけ医に報告することが重要であると考えます。

平成19年3月28日

横浜市小児科医会会長 水野恭

問い合わせ・社団法人横浜市医師会

事業二課・若杉 修

TEL：045-201-7363